

# 経営比較分析表

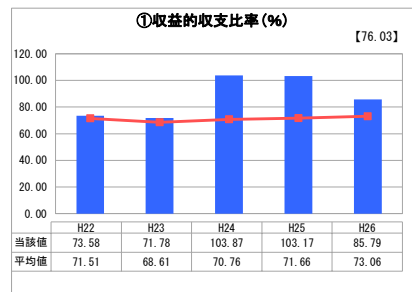
沖縄県 北大東村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	100.00	7,798

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
578	13.09	44.16
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
545	12.71	42.88

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成26年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



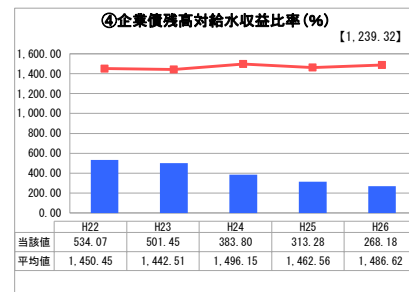
「単年度の収支」



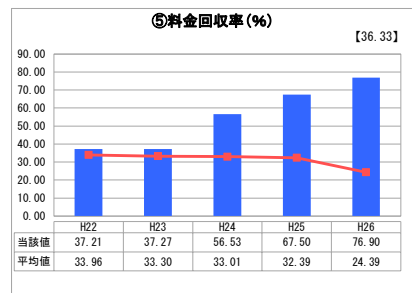
「累積欠損」



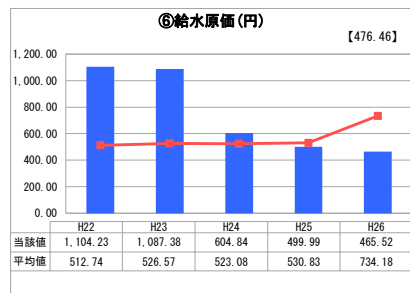
「支払能力」



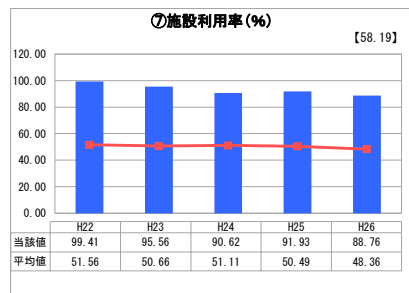
「債務残高」



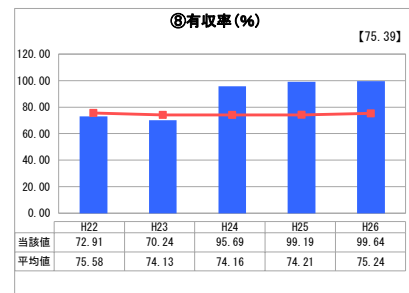
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

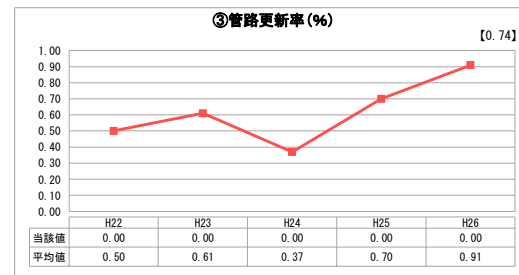
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
各年度の収支は黒字となっているが、施設投資等に係る費用を確保するため費用削減の取り組みが必要がある。
- ④企業債残高対給水収益比率  
平均値を下回っているが、管路の更新等を立案し、随時その適正性を検討する必要がある。
- ⑤料金回収率  
平均値を上回っており、今後も回収率の向上に努める。
- ⑥給水原価  
H24、25、26と下がってきているのでこれを維持しているところである。
- ⑦施設利用率  
平均値に対して高い値を維持していることから、施設への投資経済性は効率的に維持している。
- ⑧有収率  
管路の老朽化に伴い有収率が低下するおそれがある。管路更新計画を作成し有収率の維持に努める。

### 2. 老朽化の状況について

管路の耐用年数がすぎ管路の老朽化が進んでいるため、管路更新計画を作成し計画的に管路の更新が必要である。

### 全体総括

今後は、広域化に向け維持費の増額や老朽管の更新等計画的に行っていくため、経費の削減等に努めていく必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。